

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.66をお届けいたします。

facebook



FMD
OWNER'S CLUB



4月のTOPICS

■ カテーテル検査時の橈骨動脈アプローチにおける攣縮にも FMD が有効

動脈から挿入する左心カテーテル検査において、カテーテルを挿入する際の穿刺法の多くが橈骨動脈穿刺法 (radial approach) となっている。橈骨動脈穿刺法のメリットとして、①術後の安静時間が短い ②出血の有無が容易に確認できる ③減圧操作が容易 ④圧迫後の疼痛が少なく苦痛が少ないなどがあげられる。しかしデメリットの一つとして血管攣縮があげられる。穿刺の刺激により血管攣縮が起これ、穿刺困難となる場合があります。

この度、意外なことに FMD 検査の実施が橈骨動脈攣縮を防止するとの論文が発表されましたのでご紹介します。

<背景>：経皮的冠動脈インターベンションには橈骨動脈アプローチがますます用いられていますが、橈骨動脈攣縮 (RAS) は大きなデメリットの一つです。血流依存性血管拡張反応 (FMD) は、拡張を通じて内皮機能を評価するためによく用いられています。この研究の目的は、橈骨動脈アプローチ中の RAS の予防における穿刺前の FMD 検査の有効性を調査することでした。

<方法>：本研究には、橈骨動脈アプローチによる冠動脈インターベンションを受けた 222 人の連続した患者において前向きに検討しました。患者は、穿刺前に FMD 検査を受けた群 (FMD [+]) 群と受けなかった群 (FMD [-]) 群) に 1:1 でランダム化されました。

<結果>：FMD [+]) 群では、RAS の発生率は低かった (5.4%対 16.2%、 $p=0.009$)。多変量ロジスティック回帰分析は、女性であること (オッズ比 (OR) : 4.66、95%信頼区間 [CI] : 1.8-12.06、 $p=0.001$)、2 つ以上のカテーテル使用 (OR : 5.73、95% CI : 2.01-16.39、 $p=0.001$)、および穿刺前 FMD 検査非実施 (OR : 5.01、95% CI : 1.74-14.48、 $p=0.003$) の橈骨動脈アプローチが独立して RAS を予測したことを示しました。ただし、アクセスサイトのクロスオーバー数は両方のグループで非常に少なく、グループ間で違いはありませんでした。

<結論>：橈骨動脈穿刺前の FMD 検査は、橈骨動脈アプローチによる冠動脈インターベンション中の RAS を大幅に低減させる可能性があります。したがって、橈骨動脈穿刺前の FMD 検査は、RAS を予防するための簡単な補助的方法として使用可能です。

Minerva Cardioangiol. 2021 Jan 11.

橈骨動脈攣縮予防という意外なところにも FMD 検査の有用性があるようです。

その他にも冠動脈攣縮や不安定プラークの存在、狭窄度、病変数、二次イベントリスクなど、FMD 検査には PCI 実施患者にとって多くのメリットがあります。

ぜひカテーテル検査や治療を実施されている先生方にも FMD 検査をご使用いただけたら幸いです。

■ 学会展示会と共催シンポジウムのご案内

第85回日本循環器学会学術集会
World Congress of Cardiology 2021

会期：3月26日(金)～28日(日)

Web 展示会

6月30日(水)まで **オンデマンド配信中**

第6回日本血管不全学会学術集会

会期：4月11日(日) 10:00～17:40

共催シンポジウム

Web開催

タイトル：COVID19と最近のトピックス
開催日時：4月11日(日) 13:45～14:35